

目的：演者らは、本学会の第42回の全国大会において、ラット回腸に存在する空胞化細胞（以下、VCと略）の出現時期の検討を報告した。本実験では、さらにVCの細胞内に存在する若干のPAS陽性部位について光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡を使用して形態学を中心に検討を行なった。

材料と方法：実験に使用した動物は、胎生21日目、生後1日齢、生後2日齢、生後3日齢のIar: Wistar Imanichi ラットである。各臓器の採取方法は、開腹を行ない小腸を切り出し、Zamboni液に浸漬固定を実施した。その後、通常の方法でパラフィン包埋し、約3～5 μ mで薄切を行なった。染色方法は、Hematoxylin-Eosin 染色（以下、H・Eと略）、Periodic Acid Schiff reaction（以下、PASと略）、Alcian blue 染色（以下、AlciBlと略）およびMucicarumin（以下、MCと略）などである。染色後は、通常の方法で、脱水・透徹および封入を行なった。電子顕微鏡においては、各部の小腸組織を電顕用固定液で前固定の後、オスミウム液にて再固定し、エポン樹脂に包埋し、超薄切した。電子染色は、酢酸ウラニルと硝酸鉛の二重染色を行ない、透過型電子顕微鏡で観察した。

結果：光顕により、VCの細胞内に三日月状のPAS陽性顆粒が見られた。電顕において、PAS陽性部位は、粒子状の集団物質として見られた。なお、これらの細胞は、空腸末端部から回腸起始部において見られた。